Letters to the Editor

風邪とリンパ節腫大: CT によるウイルス感染症の病態把握

山本 章, 山崎絃一

尼崎老人保健施設ブルーベリー

(受付日: 2012.3.30)

著者らが勤務する介護老人保健施設では, 最近インフルエンザの流行は見られなくなったものの, 毎年冬から晩春にかけて特徴ある風邪の流行が起っています. 2011年1月から5月に掛けて見られた軽い鼻・咽喉風邪の小流行(罹患者25人)の中に, CTで著明な縦隔・腹腔のリンパ節腫大を伴ったものが4例見出されました.

最も印象的な症例(症例1, 67歳女性, 脳出血後遺症)は, 軽い風邪症状で体調不良を訴えたあと浮腫出現. 検査で低アルブミン血(2.0 g/dL, 総蛋白は5.4)とBNP増加(402 pg/mL)あり. 1週後のCT検査で, サイズは1 cm以下ながら, 甲状腺周囲, 縦隔, ならびに腸間膜に多数のリンパ節腫脹が見られました. アルブミン値は当日2.7で, 2週間後には3.0に回復. 1カ月後, BNP値も260に低下し, 腸間膜・縦隔・腋窩のリンパ節腫脹は激減していました. 甲状腺周囲のリンパ節腫脹も3カ月後には縮少し, BNP値も76に回復しました. サイトメガロウイルスM抗体は陰性でした. 本例における血清アルブミン値の低下は, 心不全と腸間膜リンパ節腫大による蛋白漏失腸症のためと推測されます.

症例2は糖尿病, 慢性心不全と認知症を持つ90歳女性で, 5月中旬に風邪のあと肺炎を起こしました. 翌日には喘鳴強く, 努力呼吸状態になったため入院. CRPは1.14. 白血球2,550(リンパ球19.2%, 単核球8.4%), 血小板も9.6万に低下. 縦隔洞リンパ節多数腫大(いずれも径1 cm以下). 症例3は96歳女性. 4月中旬風邪で発熱, 翌日喘息様の咳が出るようになり, 肺炎で入院しましたが, 数日後に死亡. 症例4は認知症, 高血圧, 軽症糖尿病を持つ86歳女性. 発熱, 咳, 咽頭痛あり. 白血球2,570(リンパ球23%, 単核球11.1%). CTで肺炎像はなし. 縦隔リンパ節の軽い腫大が散見されました.

中村らによって, Epstein Barr (EB) ウイルスがホジキン病や悪性リンパ腫の原因となる可能性が指摘され, 良性リンパ腫を含めて senile B-cell lymphoproliferative disorders なる呼称が提唱されています¹⁾. 我々の症例では, DNAあるいは抗体価による原因ウイルスの特定は出来ていませんが, CTによるリンパ節腫大の観察はウイルス感染症の病態解釈に新しい手段を与える

図1 症例1(67歳女性)の, 発症8日(a)と約1カ月後(b)の腹部X線CT写真. 写真の矢印(✓)は腫脹したリンパ節を例示する. それらはすべて径1 cm以下であった. 1カ月目にはほぼすべて縮小している.

ものと思われます.

新種の風邪ウイルスが次々に同定されるとともに²⁾, 感染後の薬剤過敏性皮膚炎やリンパ性免疫異常症の発生が目立っています³⁾. 今回経験した25人の風邪症例中にも, 上記のリンパ節腫大4例のほか, 抗菌薬過敏性皮膚炎2例, 亜急性甲状腺炎, 副腎機能不全各1例がありました. 流行が突発的に起こり, 同じものが次に何時起こるかもわからないため, 風邪ウイルスの同定は極めて困難です. 臓器横断的な免疫関連臨床ウイルス学の研究センターが地域に整備され, 中小病院や施設からの資料提供が行い易くなって, 「風邪は万病の元」が実証される日の早く訪れることを期待します.

文 献

- 1) Shimoyama Y, Asano N, Kojima M, Morishima S, Yamamoto K, et al.: Age-related EBV-associated B-cell lymphoproliferative disorders: diagnostic approach to a newly recognized clinicopathological entity. *Pathol Int* 2009; 59: 835-843.
- 2) Jartti L, Langen H, Soderlund-Venermo M, Vuorinen T, Ruuskanen O, Jartti T: New respiratory viruses and the elderly. *Open Respir Med J* 2011; 5: 61-69.
- 3) Sun H-Y, Singh N: Immune reconstitution inflammatory syndrome in non-HIV immunocompromised patients. *Curr Opin Infect Dis* 2009; 22: 394-402.